

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2370401040		
法人名	有限会社 わかば		
事業所名	うるヶアホーム わかば 3階		
所在地	名古屋市西区枇杷島4-10-5		
自己評価作成日	平成25年11月15日(金)	評価結果市町村受理日	平成27年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2370401040-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2370401040-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年1月31日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

季節のイベントの他、近所の居酒屋や、七夕まつり、藤まつりなど家族様にも声をかけ、利用者様、家族様、職員全員で楽しめるような企画・支援を行っている。  
利用者様、職員共に個性を活かした雰囲気の良いところがある。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	わかばの理念を作り上げており入社時に説明したり、施設内に掲示している。新しく会議の中で理念を読み上げ理念の再確認をするという事も始めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の挨拶やイベントを行う際、近所の方や幼稚園の園長にチラシを持って挨拶回りをし、存在を知っていただけている。幼稚園のイベントにも声を掛けていただき交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて利用者様の事例をあげたり、職員の勉強会と同じ内容のものを話したりし、個々に合わせた支援の方法を説明し、結果を伝えているが、人数は限られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開き、現状報告を行っている。参加率が低い為多くの意見を聞くことはできないが、そこで出た意見は今後のサービスに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は定期的いきいき支援センターに現状報告をしたり、支援センターが開く認知症家族会に参加させて頂き協力関係を築く様取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外はフロア、玄関の施錠を行わず、身体に関してもつなぎ服、四点柵を使わないケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のないよう職員同士心がけ気をつけている。法について細かく学ぶ機会はなく、理解できていない部分もあるが、勉強会やニュースで話題になった事例をあげたりし注意を払うよう防止につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は理解しているが職員はほとんど理解していない。実際に制度を利用されている利用者様もおらず、学ぶ機会も設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書の説明を行い、不安・疑問点などしっかり聞き、その都度お答えし、理解、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他に家族様来設時に職員コミュニケーションをとるようにし、意見、要望が言いやすいような関係作りに努め、聞けるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に意見を言いやすい環境にある。代表者には管理者を通して意見を伝えたり、職員会議に顔を出し、意見を聞く事もある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの導入により給与に反映されていたり、代表者は管理者からの報告により現状を把握している。一年の目標を各自作り、管理者と面談し、向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者の報告により把握している。施設内で新人研修や月一回の勉強会を行っている。法人外の研修は積極的には参加していないが、機会があれば参加している。。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流する機会を積極的に作り、外部・施設見学を行うなどサービス向上に努めている。職員は機会は少ないが勉強会に呼んでいただき参加したこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設見学や訪問調査などを行い、職員が本人様や家族様と話し、コミュニケーションを取る事によって、少しでも環境変化による不安を軽減できるように努め、本人様に安心して頂けるような声かけを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時や訪問時にしっかり話を聞き、話合う時間を設けるように努めている。入居後も必要に応じてこちらから電話し相談や報告を行い安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前と後にカンファレンスを行いその人に合った支援を話し合い、病歴なども踏まえ勉強会を行い、少しでも負担を少なく施設に慣れていただけて安心して生活できるように初期に力を入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物たたみ、買い物などできる事を手伝っていただいたり、利用者様との会話で笑ったりとお互い支え合って生活し、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や外出支援イベント時に家族様に声を掛け参加していただいたり病院の通院に一緒に来ていただいたりと一緒に楽しんだり協力していただき関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に支援することはできていないが、馴染みの人にいつでも来ていただいたり、電話をかけたたり、かかってきても良いような雰囲気づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係の把握はしており、利用者様のストレスのないような外出支援、日常の席の位置など考慮している。無理な声かけはできないので居室で過ごされる事が多い利用者様も一部いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡・相談があれば管理者が対応しているが、施設から積極的に連絡をすることは少ない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様や本人様から話を聞いたり、表情などから、思いや意向を把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様から昔の仕事の話を聞いたり家族様から一緒に暮らしていた時の話を聞いたり前の施設の職員から話を聞いたりし、アセスメントに残し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人ひとりの様子をチェック表に残し、目を通したり、細かい情報は引継ぎで把握できるよう努めている。また、本人様の状態に合わせたチェック表も必要に応じて作成し様子を細かく記録できるよう工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて医師、家族、職員で話し合いを行い、介護計画を作成することもあるが、基本的に職員がアセスメントをとり、作成担当者と話し合っ作するような形にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のチェック表に一日の様子その他、入浴、外出支援の様子や特変など記録に残し、目を通したり、引き継ぎで情報を共有しているが介護計画の見直しを意識して記録にかけていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状態により、訪問看護師や医師からの紹介など協力していただき、柔軟な対応、支援はしているが、多機能化には取り組んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の幼稚園のイベントの参加や、喫茶店、スーパー、居酒屋、理髪店の利用、公園への散歩など活用している。イベント時に近所の方に演奏会をしていただく事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の希望を聞き、利用者様が入居前から通われていた病院への通院を続けたり、納得が得られるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一ヶ月に4回訪問看護師に来ていただき、利用者の状態で気付けた事、気になる所を看取していただいたり、ケアに関するアドバイスをしてもらっている。また、訪問看護ステーションと協力医療機関の情報も共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の本人の状態が把握できるように、職員定期的にお見舞いに行き、医師や看護師から情報を聞き、記録に残し、職員間で共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化対応指針について説明し、家族様から意見、要望を聞いている。又、重度化や状態の変化時には医師、家族と十分に話し合い、家族の意見を尊重し、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応のマニュアルはあるが、勉強会が行われていないため、ほとんどの職員が急変時や事故発生時の応急手当の実践ができていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応の話し合いは行い、火災時の避難訓練は職員中心と一部利用者様に協力していただき行ったが、全職員が身につけられていない。地域との協力体制も築けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に合わせた声かけや対応をしているが、細かい所でプライバシーの配慮が足りなかったり、言葉遣いが崩れてしまったりする事がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の訴えを聞き、希望など言いやすい関係づくりに努めている。自己決定の難しい利用者様には選択肢を作ったり、工夫した声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけを行い、起床や食事の時間を、その人の状態に合わせて、無理せず遅らせたり、希望を聞いたりし、時間に縛られないような暮らしの支援に努めているが、入浴の時間帯や外出など時には希望に添えず、職員都合になってしまう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方は自己にてお化粧をされたり職員と化粧品を買いに行ったりしている。美容院、理髪店に行かれる方や行けない方は定期的に美容師に来ていただいている。馴染みの服を持ってきてもらっているが、訴えができない方は職員で決めてしまったり、男性では口髭が伸びている時があるなど、細かい部分では不十分である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立された利用者様にお茶を入れて頂いたり、食器の片づけを手伝って頂いたりし、職員も感謝を忘れないようにしている。食事もなるべく職員も一緒にとるようにし、話したりし、楽しみながら食事ができるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録に残している。食べ物、飲み物の好みも大体把握できているので、工夫して提供したり、一人ひとりの状態に合わせて、食べやすい状態にし、提供するようにしている。。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にてしている方もいるが、毎食後の口腔ケアは、行っていない。就寝前には入れ歯の洗浄、口腔ケアを行っている。歯ブラシを嫌がる方にはスポンジ状のブラシを使ってもらったり、定期的に歯科の往診を行っている方もおり、アドバイスを頂き工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、排泄のパターンの把握に努めているが、定期的な声掛けや誘導ができておらず、自立に向けた支援は行っていない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や運動面での工夫は足りていない。利用者様に合わせた下剤、整腸剤を使用し、医師に相談し調整を行っている。朝は牛乳を提供したり、水分強化に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけを行い無理せず希望やタイミングに合わせて満足できるような支援に努めているが、訴えのできない方など職員都合になってしまっている場合がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や体調に合わせて休んでいただいている。ベッドではなくたみに布団で休まれる方もおり、その人に合った支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧のファイルがあり、すぐ確認できるようにしてあるが、全ての職員が細かく薬について理解把握はできていない。新しく薬が処方された際には引き継ぎで情報を共有し状態の変化が分かるように記録に残すように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会や季節のイベント・外出などの企画をし楽しんでもらったり、日々の散歩やタバコを吸われる方。食器洗いや洗濯物の手伝いをしてもらったりと支援しているが、できていない方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が好きなお方には希望があれば支援に努めているが、一人一人の希望には添えていない時がある。花見や居酒屋、七夕まつりなどイベントの外出は家族様にも協力していただき、楽しんでもらっている。市外、県外の外出も企画し行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様は財布を持っており買い物で使ったり、持ってるだけで安心される方もいる。基本的には預り金として管理しており、自己にてお金を使う方の中には使いすぎないように調整して預り金からお金を渡している場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあった場合、間違いのないように見守ったり、施設の電話の使い方を教えたりし支援し友人や親族から電話がかかってくる事もある。訴えない方や手紙の支援などはできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはイベント時の写真など飾って楽しめるようにしたり、台所は食中毒、浴室は感染症などに注意し、なるべく清潔に保てるようにしている。細かい所の整理整頓ができておらず、季節感もあまりだせていない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二階、三階にや屋上、一階の自動販売機、家庭菜園などへの移動が自由になっていたり、利用者様の喫煙スペースがあったり、好きな時にソファに座ってテレビを見たり、気の合った利用者様同士が近くなるように配置し、おしゃべりを楽しんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に家族に説明し、馴染みのある物や使い慣れた物、服、家具などを持ってきてもらっている。一部の利用者様は仏壇、冷蔵庫、畳に布団の方もいる。家族写真を飾られている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、お風呂には分かりやすいように表札をつけて利用者様の名前を確認して居室に入られる方もいる。建物中はバリアフリーで手すりも多く、高さも工夫しており、安心して歩行できるようになっている。		